



「動く→動かす」活動指針／活動計画 (2010年7月～2011年6月)

1. 「動く→動かす」を取り巻く状況（活動報告書から抜粋）

2009年3月に42団体で発足した「動く→動かす」は、1年半後の今日、56団体の参加を得て、MDGsを達成し、世界の貧困をなくすためのNGO・市民社会のネットワークとしての存在を確立しました。NGO間のネットワーク強化には、継続的な政策提言やパブリック・モビリゼーションに加えて、事務局として、政府によるNGO支援スキームの改革に継続的に取り組み、とくに「NGO連携無償資金協力」(N連)の改革などを、多くの加盟団体とともに取りまとめたことや、NGO・外務省定期協議会「連携推進委員会」などで、様々な提言活動を行ったことも有効に機能しました。

資金的には、当初、資金不足が懸念されましたが、国連ミレニアム・キャンペーンからの助成に加え、上記NGO支援スキームの改革に関して外務省の委託事業「NGO研究会」を実施したこと、また、加盟団体等とも協力して、いくつかの海外の財団を経由した事業助成を確保したことにより、ある程度、安定的な資金確保ができました。この経験をもとに、本年度については、より充実した財政状態を目指して取り組むことができるようになっていきます。

他セクターとの連携については、政策提言やパブリック・モビリゼーションの取り組みの中で積極的に行いました。政策提言分野では、日本の貧困問題に取り組むグループで作る「反貧困ネットワーク」との間で「日本版MDGs」の策定に取り組みました。また、気候変動や生物多様性の分野では、それぞれのNGOネットワークとの協力関係を築くことができました。また、スタンドアアップ・テイクアクションの取り組みを通して、民間企業やスポーツ界などとの連携も強化することが出来ました。これらは、いずれも、今年度以降の活動を展開していく上で大きな財産となっています。

2. 「動く→動かす」の2010～2011年活動計画

「動く→動かす」の事業は、運営委員会の承認を得た実施チームが中心となり、チーム間の連携を図りながら、実施されていきます。2010年7月現在、「政策チーム」「パブリック・モビリゼーション・チーム」「TICADアドボカシー・チーム」の3チームが設立されています。以下は、「動く→動かす」の活動期間第1フェーズとなる2010～2011年における、以下の達成目標、活動分野、活動内容を示します。

■ 2010～2011年達成目標

- A. MDGs を中心に据えた日本政府の ODA 政策・体制の改革及び予算増への取り組みが、NGO との連携の下で始まる（政策アドボカシー）
- B. MDGs に関連する重要な国際プロセスへの関与を通じて、日本の取り組み強化の国際環境を整備する（政策アドボカシー）
- C. 隣接分野における市民社会アドボカシー・キャンペーン活動との相乗効果を創出する
- D. 世界の貧困の解消を自らの問題として捉え、行動する市民が、つながりを持ち活動できる環境を創る。（パブリック・モビリゼーション）
- E. 世界の貧困の解消に関心を持つ NGO 間のネットワークを強化し、他セクターとの連携の下、「貧困をなくそう」というムーブメントを、日本社会に芽吹かせていくための基盤を整備する。（組織運営分野）

◆ 政策アドボカシー活動分野

- A-1. 「ODA のあり方に関する検討」に含まれる肯定的改革の具体化促進
- A-2. ODA 改革の意義についての「見える化」
- B-1. 国連 MDGs レビュー・サミット、G20 ソウル・サミット、TICAD 閣僚級フォローアップ会合、G8 サミット、第 4 回援助効果ハイレベルフォーラムの事前準備及び本番におけるアドボカシー活動
- B-2. 上記国際プロセスに向けた GCAP SENCA や GCAP G8/G20 WG などの活動において、東アジア地域のリーダーシップを発揮。特に GCAP Korea との連携を重視
- C-1. 非 ODA 課題に関する「動く→動かす」の政策能力の強化、もしくはそれら課題に取り組む NGO との連携強化

◆ パブリック・モビリゼーション活動分野

- D-1. 貧困問題にすでに関心を持っている人が「動く→動かす」と共に活動を展開できるためのスキル・情報の提供、活動環境の整備
- D-2. 世界の貧困の解消に向けたポピュラーな運動の創造、市民参加の機会の拡充
- D-3. 政策と連動したアクションの実施

◆ 組織運営活動分野

- E-1. 「動く→動かす」のパブリックイメージの構築
- E-2. 世界の貧困の解消に関心を持つ多くの NGO の参加促進及びネットワークの強化
- E-3. 確実で安定的な財政基盤の構築
- E-4. 「世界の貧困を解消する」という目的を共有する、多くの他セクターの人々や組織との連携を強化

以上

【参考】活動内容詳細

活動分野	活動内容	実施体制/備考
<p>【達成目標A】 MDGsを中心に据えた日本政府のODA政策・体制の改革及び予算増への取り組みが、NGOとの連携の下で始まる</p>		
<p>A-1. 「ODA のあり方に関する検討」に含まれる肯定的改革の具体化促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外務省「ODA のあり方に関する検討」の結果を踏まえ、MDGs 達成の観点から重要な内容の具体化に向けた政府内プロセスに、関連 NGO との連携を通じて提言 	<p>政策チーム</p>
<p>A-2. ODA 改革の意義についての「見える化」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外務省「ODA のあり方に関する検討」の結果について、市民社会の視点からの評価を公表する機会の創出（シンポジウム開催など） これらを通じたメディアや議員との関係構築 	<p>政策チーム</p>
<p>【達成目標B】 MDGsに関連する重要な国際プロセスへの関与を通じて、日本の取り組み強化の国際環境を整備する</p>		
<p>B-1. 国連 MDGs レビュー・サミット、G20 ソウル・サミット、TICAD 閣僚級フォローアップ会合、G8 サミット、第4回援助効果ハイレベルフォーラムの事前準備及び本番におけるアドボカシー活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国連 MDGs サミット（2010年9月）事前準備プロセスへの提言活動（教育、保健分野 NGO ネットワークとの連携を通じ）、政府代表団への参画、本番でのメディアワーク G20 ソウル・サミット（2010年11月）の事前及び本番でのメディアワーク G8 サミット（2011年6月@フランス）に向けた事前および本番でのロビイング/メディアワーク 第4回援助効果ハイレベルフォーラム（2011年韓国）に向けた外務省との意見交換プロセスへの関与。事前・本番でのメディアワークなど TICAD 閣僚級フォローアップ会合への参画、アフリカ市民評議会との連携・日本側取りまとめ TICAD 進捗状況モニタリング（TICAD フォローアップ・プロセ 	<p>政策チーム</p> <p>TICAD アドボカシー・チーム</p>

	ス) への NGO 関与の促進	
B - 2. 上記国際プロセスに向けた GCAP SENCA や GCAP G8/G20 WG などの活動において、東アジア地域のリーダーシップを発揮。特に GCAP Korea との連携を重視	<ul style="list-style-type: none"> • SENCA 会議への参加 (2010 年 7 月 @ソウル) • G20 戦略会議(2010年7月@ソウル)への参加 • G20 ソウル・サミット及び援助効果ハイレベルフォーラムに向けた GCAP Korea との連携 • GCAP Global Assembly (2010 年 9 月@NY) への参加 	政策チーム 事務局?
【達成目標C】 隣接分野における市民社会アドボカシー・キャンペーン活動との相乗効果を創出する		
C-1. 非 ODA 課題に関する「動く→動かす」の政策能力の強化、もしくはそれら課題に取り組む NGO との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> • 国際連帯税を推進する市民の会 (アシスト) /CAN-J/Make the Rule/生物多様性ネットワーク関係諸団体、反貧困ネットワークとの関係構築を通じ、連携の可能性を模索 	政策チーム/パブモビ・チーム/事務局
【達成目標D】 世界の貧困の解消を自らの問題として捉え、行動する市民が、つながりを持ち活動できる環境を創る。		
D-1. 貧困問題にすでに関心を持っている人が「動く→動かす」と共に活動を展開できるためのスキル・情報の提供、活動環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> • 「“社会を動かす” アドボカシー実践講座」の定期的な開催 (春、夏) • 自主的にアドボカシー活動を展開するグループの設立の促進、活動サポート • MDGs の重要性・進捗が単なる国際目標としてではなく、途上国の人たちの現状から理解でき、その解決に向けた行動を考えるきっかけとなるツールを製作、普及 	パブモビ・チーム
D-2. 世界の貧困の解消に向けたポピュラーな運動の創造、市民参加の機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> • スタンドアップ・テイクアクションの継続的な実施 (2015 年まで毎年) • スタンドアップ・テイクアクションへ参加した人が成果を感じ、その後の活動に参加できるような仕組みの構築 • MDGs への関心を高めるプログラム 	パブモビ・チーム

	<p>をさまざまなアクターと連携して実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● GCAP グローバルと連携した、パブリック・モビリゼーションの実施 	
D-3.政策と連動したアクションの実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 重要な政策決定時毎に政策チームと連携し、市民が参加することのできるアクションの提示 ● ホームページを通じたアクションを行えるように改善 	パブモビ・チーム / 政策チーム
<p>【達成目標E】世界の貧困の解消に関心を持つNGO間のネットワークを強化し、他セクターとの連携の下、「貧困をなくそう」というムーブメントを、日本社会に芽吹かせていくための基盤を整備する。</p>		
E-1. 「動く→動かす」のパブリックイメージの構築	<ul style="list-style-type: none"> ● ブランディング戦略の実施 ● ホームページの拡充 ● リーフレットなどの広報ツールの整備 	事務局 / パブモビ・チーム
E-2. 世界の貧困の解消に関心を持つ多くの NGO の参加促進及びネットワークの強化	<ul style="list-style-type: none"> ● パートナーシップフォーラムの開催 ● 動く→動かす内チーム間の連携の強化、加盟団体の参加促進 	事務局/運営委員会/各チーム
E-3. 確実で安定的な財政基盤の構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己財源を中心とした資金調達体制の構築 ● 他セクターとの協力 ● 個別事業に対する助成金の獲得 	事務局/運営委員会
E-4. 「世界の貧困を解消する」という目的を共有する、多くの他セクターの人々や組織との連携を強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 連携委員の選任、連携強化 ● 各セクターとの定期的な対話の実施 	事務局/運営委員会

【参考】チーム構成団体（2010年7月5日現在）

■ 政策チーム

リーダー：（特活）オックスファム・ジャパン 山田太雲

（特活）アフリカ日本協議会、（特活）オックスファム・ジャパン、オルタモンド、教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）、（特活）国際協力 NGO センター（JANIC）、（財）ジョイセフ（家族計画国際協力財団）、すぺーすアライズ、（社）セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、（特活）世界の医療団（メドゥサン・デュ・モンド・ジャポン）、日本リザルツ、（特活）ハンガー・フリー・ワールド、（特活）ワールド・ビジョン・ジャパン

■ パブリック・モビリゼーション・チーム

リーダー：（特活）ハンガー・フリー・ワールド 富田杏子

（特活）WE 2 1 ジャパン、（特活）オックスファム・ジャパン、（特活）開発教育協会（DEAR）、（特活）ハンガー・フリー・ワールド、ピースボート、（財）日本フォスター・プラン協会（プラン・ジャパン）、（特活）DPI 日本会議、（特活）国際協力 NGO センター（JANIC）、草の根援助運動

■ TICAD アドボカシー・チーム

リーダー：（特活）アフリカ日本協議会 斉藤龍一郎

（特活）アフリカ日本協議会、（特活）アフリカ理解プロジェクト、（特活）ハンガー・フリー・ワールド、（財）日本フォスター・プラン協会（プラン・ジャパン）、（特活）DPI 日本会議